

スジグロシロチョウ



(撮影：桐原真希)

福頼にて

かつて私は、白いチョウはみんなモンシロチョウだと思っていました。しかし、高校生の時に参加した自然観察会で、他にも白いチョウがいることを教えてもらいました。それがスジグロシロチョウでした。筋黒白蝶という名の通り、翅の脈に黒い筋があるのが特徴です。

このチョウは、春の訪れを告げるかのように舞い始めます。そして、気温が上がっていくにしたがって、畑や林縁で飛び交う姿が増えていき、3月から10月頃までの半年間ほど観察することができます。また、スジグロシロチョウの幼虫は、モンシロチョウと同様にアブラナ科の植物が大好きで、キャベツやダイコン、ハクサイなどの農作物の害虫となつていきます。子育て中の小鳥たちは、この青虫を餌にして雛を育て、害虫駆除に一役かっています。

南部町には白いチョウが5種ほどいます。そして最近新たに「ヤマトスジグロシロチョウ」という名前がつけられたチョウがいます。スジグロシロチョウにとってもよく似ている

「エゾスジグロシロチョウ」を、後ろ翅の付け根にある黄色い模様の違いで2種類に分けたそうです。生き物の世界にはそっくりさんがいる場合が多々ありますが、身近なチョウの1つであるスジグロシロチョウにまで超そっくりさんがいるとは、チョウの世界も奥深いと感じました。まだ南部町内ではヤマトスジグロシロチョウを確認していませんので、今後注意してみたいと思います。

主人がこんな話しをしてくれました。小学生の頃スジグロシロチョウを捕まえたら、強烈なレモンの香りがしたそうです。図鑑によると、スジグロシロチョウのオスには、「発香鱗」という臭いを発する鱗粉（翅の表面を覆っている粉状の細胞）があります。そこに「シラトール」というレモンと同じ成分の香り物質があるので。先日、私も初めて「レモン臭」を体験でき、大変驚きました。皆さんも機会がありましたら、スジグロシロチョウを手にとって香りを嗅いでみませんか。

自然観察指導員 桐原真希